

血液透析患者におけるエポエチンバイオシミラーの生物学的特性

－ ダルベポエチンとの比較

長崎腎病院

○宮本教司 林田征俊 矢野利幸 高木伴幸 澤瀬健次 原田孝司 船越哲

【背景】

エポエチン α (EPO) はダルベポエチン (DA) に比べ廉価である一方、実臨床においてその生物学的効果の差を検証する必要がある。

【目的】

DA から EPO へ変更前後の赤血球造血の様式を比較する。

【対象・方法】

当院で維持透析中の患者 104 名に文書で同意を得た上で、Hb 値を 10-12 g/dL に保ちながら DA から EPO に切り替え、赤血球造血パラメータを比較する。

【結果】

切り替え後 3 ヶ月の時点で、網状赤血球は $1.8 \pm 0.8\% \rightarrow 1.9 \pm 0.9\%$ 、フェリチンは $65.4 \pm 269 \text{g/dL} \rightarrow 64.2 \pm 254 \text{g/dL}$ 、TSAT は $23 \pm 13.9\% \rightarrow 19 \pm 9.5\%$ と低下傾向だが有意差はなく、その他血圧・体重・栄養状態にも変化はなかった。また、月当たりの薬価での ESA 費では約 35% の削減が可能であった。

【考案】

DA から EPO への切り替えにおいて、至適 Hb 値の範囲内では赤血球造血の様式に変化はなく、経営上にも有益である。